2018年9月7日（金曜日）の下野新聞に救缶鳥の日のイベント(運動靴の寄付)について掲載されました！

2018年（平成30年）9月7日（金曜日）　下野新聞

アフリカへ運動靴贈ろう

9日、寄付募るイベント

那須塩原の「パン・アキモト」

【那須塩原】アフリカ南部の国エスワティニ（旧スワジランド）の子どもたちを支援しようと、東小屋のパン製造販売「パン・アキモト」は9日、運動靴の寄付を募るイベントを同所の石窯パン工房「きらむぎ」の敷地内で開く。同社は長期保存できるパンの缶詰を海外などに届ける「救缶鳥プロジェクト」に取り組んできたが、靴を贈るのは初めて。秋元義彦社長（65）は「みんなの優しさを世界に届けてほしい」と寄付を呼び掛けている。（小川貴広）

今春、同社の秋元信彦営業部長（39）がパンの缶詰を直接手渡すため、エスワティニを訪問。その際、現地で靴を履いていない多くの子どもを目の当たりにした。帰国後、その様子を報告したところ「パンだけでなく支援の幅を広げたい」と、秋元社長が同プロジェクトの発展型として支援を決めた。

運動靴の寄付を呼び掛ける秋元社長（中央）とパン・アキモトの社員たち

2009年から始まった同プロジェクトは、賞味期限（37カ月）が近づいたパンの缶詰を、災害用備蓄食として購入した自治体や企業、個人から回収。アジアやアフリカの飢餓地域や国内の被災地に義援物資として寄付する取り組み。

これまで16カ国に約50万食、国内は約30万食の計約80万食を無償で届けた。同国には4年前から東京都の製紙会社の協力で船便を利用し、約10万食を寄贈してきた。

今回のイベントでは、洗濯した16～24センチの運動靴を募集。集まった靴は数回に分け、年内にパンの缶詰とともに同国へ贈るという。

靴の寄贈は今後も継続していく方針で、秋元社長は「靴メーカーなどの大手企業や地元の小中学校にも（協力を）呼び掛けていきたい」と話す。午前11時～午後1時。先着200人の寄付者にパンの缶詰1缶をプレゼントする。問同社0287・65・3558。